

波頭を越えて

竹島リポート

第1部 (2)

「トド（アシカ）はあまりかよった（たぶんいた）が、漁はきついし、恐ろしかった。トドは船を跳ね飛ばし、噛みちぎりてしまつんだ」昭和9年5月。「竹島漁業合資会社」の橋岡忠重に雇われ、約1ヶ月間竹島での漁に従事した吉山武(96)は、70年以前の竹島の様子を鮮やかに覚えていた。西郷町(現隠岐の島町)発行の「あるさとアルバム西郷」に収められた竹島でのアシカ漁の写真を見ると、突然、吉山が「ら（おれだ）」と指さした。

示したのは「昭和9年6月、竹島・東島の浜撮影」とされた写真。当時23歳の吉山鉢巻姿で写っている。「黒田、大和屋、福田屋、米屋…」と、吉山は一緒に写る15人の名も次々と挙げ、後日調査に訪れた島根県の竹島問題研究会のメンバーを驚かせた。

「トド（アシカ）はあまりかよった（たぶんいた）が、漁はきついし、恐ろしかった。トドは船を跳ね飛ばし、噛みちぎりてしまつんだ」昭和9年5月。「竹島漁業合資会社」の橋岡忠重に雇われ、約1ヶ月間竹島での漁に従事した吉山武(96)は、70年以前の竹島の様子を鮮やかに覚えていた。西郷町(現隠岐の島町)発行の「あるさとアルバム西郷」に収められた竹島でのアシカ漁の写真を見ると、突然、吉山が「ら（おれだ）」と指さした。

「あの」の米屋では、次々と詳細が判明。日本で長い間放置されていた「竹島資料」が、「一気に厚みを増す」とい

「あの」の米屋では、次々と詳細が判明。日本で長い間放置されていた「竹島資料」が、「一気に厚みを増す」とい

吉山は未経験のアシカ漁を手伝わされた。「漁師といふより、体格のいい力持ちばかり」専門。「隱岐の島で右

強な吉山がその怖さを強調する。「すばらしい米屋が網をつまみさぼった。あいには相撲も強かったからなあ」と懐かしだ。

海女は日本語も堪能で、食事の支度もしてくれた。だ

同じくカナギ漁の名人だった八幡伊三郎は昭和8~13年、計9回竹島に渡った。アーフビを探す仕事柄、海中の様子は誰よりも熟知していた。

昭和初期に竹島で撮影された写真は何枚か地元に残っていったが、被写体本人が確認できたのは初めてだった。この写真を指し示す吉山武。

「あの」の米屋では、次々と詳細が判明。日本で長い間放置されていた「竹島資料」が、「一気に厚みを増す」とい

吉山はカナギ漁（アワビ漁）専門。「隱岐の島で右

強な吉山がその怖さを強調する。「すばらしい米屋が網

をつまみさぼった。あいには相撲も強かったからなあ」と懐かしだ。

海女は日本語も堪能で、食

事の支度もしてくれた。だ

同じくカナギ漁の名人だった八幡伊三郎は昭和8~13年、計9回竹島に渡った。アーフビを探す仕事柄、海中の様子は誰よりも熟知していた。

昭和初期に竹島で撮影され

た写真は何枚か地元に残って

いたが、被写体本人が確認でき

たのは初めてだった。この

写真を指し示す吉山武。

「あの」の米屋では、次々と詳

細が判明。日本で長い間置

けられていた「竹島資料」

が、「一気に厚みを増す」とい

う。朝鮮半島の船が操業して

洞窟の入り口に網を張り、

力ナギ漁を担当したのは

「最もよく働く」と連れて来

た朝鮮・濟州島の海女4人。

かく体力勝負。「囁まれちゃ

あ、お魚のねじしまつ」と屈

強な吉山がその怖さを強調す

る。「すばらしい米屋が網

をつまみさぼった。あいには相

撲も強かったからなあ」と懐かしだ。

海女は日本語も堪能で、食

事の支度もしてくれた。だ

「あの」の米屋では、次々と詳

細が判明。日本で長い間置

けられていた「竹島資料」

が、「一気に厚みを増す」とい

う。朝鮮半島の船が操業して

洞窟の入り口に網を張り、

力ナギ漁を担当したのは

「最もよく働く」と連れて来

た朝鮮・濟州島の海女4人。

かく体力勝負。「囁まれちゃ

あ、お魚のねじしまつ」と屈

強な吉山がその怖さを強調す

る。「すばらしい米屋が網

をつまみさぼった。あいには相

撲も強かったからなあ」と懐かしだ。

海女は日本語も堪能で、食

事の支度もしてくれた。だ

「あの」の米屋では、次々と詳

細が判明。日本で長い間置

けられていた「竹島資料」

が、「一気に厚みを増す」とい

う。朝鮮半島の船が操業して

洞窟の入り口に網を張り、

力ナギ漁を担当したのは

「最もよく働く」と連れて来

た朝鮮・濟州島の海女4人。

かく体力勝負。「囁まれちゃ

あ、お魚のねじしまつ」と屈

強な吉山がその怖さを強調す

る。「すばらしい米屋が網

をつまみさぼった。あいには相

撲も強かったからなあ」と懐かしだ。

海女は日本語も堪能で、食

事の支度もしてくれた。だ

「あの」の米屋では、次々と詳

細が判明。日本で長い間置

けられていた「竹島資料」

が、「一気に厚みを増す」とい

う。朝鮮半島の船が操業して

洞窟の入り口に網を張り、

力ナギ漁を担当したのは

「最もよく働く」と連れて来

た朝鮮・濟州島の海女4人。

かく体力勝負。「囁まれちゃ

あ、お魚のねじしまつ」と屈

強な吉山がその怖さを強調す

る。「すばらしい米屋が網を張り立てる」とも聞い

た」とは、見た」とも聞い

た」ともない。「海女が雇わ

れて来るようになって初めて

（韓国は）漁ができるなど

が集められた」ところ。

今は韓国が実効支配してい

て、日本からは行けないと話

すと、意外そうな表情でつぶ

やいた。

「あの島、行かれんか

の。つまらんだか」

「わざわざ北へ来たんだなあ」と

吉山も當時を、「収入が倍に

分に引受けた伊三郎は、半

年で折った障子紙に、筆でも

の10分で描き上げた。

同じくカナギ漁の名人だった八幡伊三郎は昭和8~13年、計9回竹島に渡った。アーフビを探す仕事柄、海中の様子は誰よりも熟知していた。

辺は浅瀬だが、あるラインか

ら急に400~600㍍もある

くんと落ち込んで深くなる。

このため潮は速いが、栄養分

が多く、ワカメも大きいしア

日本にはある。だが、日本の漁

島」として、韓国へ譲って

「友情島」にできないかと書

き、物議をかもした新聞も日

本にはある。だが、日本の漁

島」として、韓国へ譲って

「友情島」だったのだ。

（文中敬称略）